

医療法人 和同会 防府リハビリテーション病院

リハビリテーション科 学会発表/学術発表

9. 学会名 ; 第 52 回 山口県回復期リハビリテーション病棟研究会

【開催地】 周南市学び・交流プラザ 多目的ホール

【日 時】 2025 年 11 月 22 日(土)

【演題名】 「回復期リハビリテーション病棟から外来リハビリテーションへと連携し、

自動車運転再開に向けて注意機能訓練を中心に介入した一症例」

発表者 ; 小島 千鶴



### 【はじめに】

- 脳卒中後片麻痺患者に対して自動車運転支援プログラムを実施し、2024年の1年間の内、55%が運転再開した。
- 退院後における支援や、可否を判断する具体的時期についての報告は多くない。  
；武隈 裕:脳損傷者の運転再開可否判断時期についての後方的検討. Jpn.J.Rehabil Med.2022;59:951-958
- 回復期リハビリテーション病棟を退院後に、外来リハビリテーションを継続し、運転再開に至った一症例を経験したため報告する。

### 【結果II】



動画2.外来リハビリテーション 自動車運転支援プログラム終了時

### 【考察II】

- 前頭葉損傷例にみられる注意障害は、慢性期にあっても改善の可能性があるとされる。  
；渡島:高次脳機能障害のリハビリテーションと長期予後. リハビリテーション医学2000;37:151-164
- 本症例でも、発症後約1年でTMT-JとSDMTが向上し、J-SDSAやDSが良好な結果となった。
- 発症部位や程度による予後予測の下、注意機能に対する継続的リハビリテーションの実施と再評価は、運転再開に有効であると考えた。

この度、注意機能障害を呈した患者様に対し、回復期リハビリテーションから外来リハビリテーションを通して継続的なりハビリテーションを実施した結果、発症後1年で自動車運転再開に至った。今後も、回復期病棟から継続的なりハビリテーションを行い、適切な運転可否判断の一助となるよう、自動車運転支援をしていきたいと思ひます。

【特別講演】 『運動器リハビリテーションに関する最近の話題』

山口大学医学部 整形外科 教授 坂井 孝司 先生